

会津地方推進本部

会津地方推進本部・地方農業圏連携強化推進協議会・農林業団体・農業事業体等の活動状況

林業後継者育成事業現地研修会が開催されました

8月20日(金)に、県立会津農林高等学校林業緑地科の1年生40名が参加して、森林・林業・木材産業の役割を理解するための現地研修会が開催され、三島町の会津桐タンス(株)で桐材が製品化される様子、美坂高原生活環境保全林では森林を守る治山事業についてそれぞれ真剣に学びました。また三島町生活工芸館では木工製品の製作を体験し、充実した一日を過ごしました。

また9月7(火)～9日(木)には、2年生9名が会津若松地方森林組合で3日間の現場実習を行い、学校では経験のできない実際の職業体験をとおして広範な知識の習得に努めています。



林業教室・グリーンフォレター養成講座の開校式が開催されました

8月23日(月)に、喜多方市林業総合センターにおいて、林業教室(基礎講座、実践講座)及びグリーンフォレター養成講座の開校式が開催され、林業教室研修生6名とグリーンフォレター養成講座受講生3名が出席して、森林・林業の現状等に関する講話や林業経営・緑化・間伐技術(実践講座)等の研修が行われました。



また9月10日(金)には林業教室の第2回目が開催され、林業機械・森林保護・林木育種に関する現地研修が行われました。

研修生は今後ボランティア活動など通じて林業の重要性、技術などを広く県民に伝えることができるよう、それぞれの講座を真剣に受講していました。

「地産地消 学校新聞コンクール」の開催について

会津地方振興局と会津農林事務所が連携して「地産地消 学校新聞コンクール」が行われます。

これは、「地産地消推進プログラム」の重点取り組み期間の3年目である今年、普段の生活の中で地産地消に主体的に取り組める機運を醸成する目的で、小学生から参加できるイベントを組む「MADE IN ふくしま 地域別支援事業」により実施するものです。

「地産地消」をテーマにした模造紙1枚程度の壁新聞を作り、学校の代表作品1点を出品してもらい、コンクールを開催します。

審査と発表は11月7日(日)に「伝統的工芸品全国大会・うつくしま地場産品フェア'04(11月4日(木)～7日(日))」会場である「あいづドーム・会津総合体育館」で行われます。また、4日から6日の間は、フェア会場の方々にも投票いただき、その結果も審査に反映されます。

なお、応募作品はコンクール実施後、「地産地消推進の店」である四季乃蔵(喜多方市)道の駅会津柳津(柳津町)道の駅裏磐梯(北塩原村)に展示されます。

豊かな発想を持つ小学生の目には「地産地消」がどのような姿に映るのか、新聞のできあがりを楽しみます。

グリーン・ツーリズム広域連携部会の活動について

会津地方グリーン・ツーリズム推進会議の、広域連携部会は、実践者の方から「来訪者に対して自分の町村内にあるG T資源の紹介はできるが、隣町のことになると実は知らない。」「何度も再訪してくれる人がいるが、自分の近辺でできる体験を一巡してしまい、マンネリ化が明らかになっている。」「情報収集できる地域が狭いため、体験できる農作業内容が同一でメニュー化できない。山間部と平野部といったように地域をやや広げた情報交換が必要だが誰に聞いたら良いかさえ分からない。」といった声を聞いたのを契機に、各々の地区で知られているG T資源について情報を交換し、また、近隣地区に居る実践者の情報そのものまでも訪問者に対して相互に提供し合える機運を高めようと内発的に設立された部会です。



今年度はこれまで会津若松地区、喜多方地区、会津坂下地区に各々モデルコースを設定して、実踏調査を行っています。

こうしたなか、9月22日には北会津村と会津坂下町を訪れて実践状況などを調査しました。

このうち北会津村ではモニターツアーを受け入れた農家とモニターとなった大学生が出席して、お互いの率直な感想を述べ合いました。

学生側からは「G Tというものが都市生活者と農村生活者の両方にとってなぜ大切なのかを感じることができた。」という感想や、「人と出会い、一対一で話しを聞き合うことで初めて見えてくるものがある。」という体験からしか得られない意見が述べられ、農家側からは「G Tとは何であるかが全く分からない状態で始めたが、実行したらただの楽しさは残った。」という感想や、「お金儲けの手段ではなく、人が来てくれて、若い人が自分達の生活に興味を持ったことだけでも、生き甲斐を感じるし農業のやり甲斐を実感した。」といった実行した方ならではの意見も出されました。

これらのやり取りを聞いた部会員からは、「訪問者は単なる体験を望むばかりではなく、一対一の交流にこそ強い印象を持つことがよく分かり、おもてなしの心を大切にする会津なりのG Tのポイントが明らかになった。」という感想や、受入れ者はプライベートな時間も拘束されることから、集落など地域全体で受け入れるべきであり、またそうすることで再訪問者の確保にも発展した事例が報告されました。

このように部会活動では回数を重ねるごとに問題点が明確に見えてくるようです。問題点が明らかになれば解決の糸口も見つかることでしょう。部会ではお互いの持つG T資源を流通させる有用性が相互に確認されつつありますので、事務局では次の部会活動のステップに移行することを検討し始めています。即ち、連携できる内容をどのように発信するかです。この点については次回の部会から検討が開始される見込みです。

食農教育「寺子屋あいつ農林事務所出前講座」の実施状況

会津農林事務所では、平成13年に開催されたうつくしま未来博に合わせて、総合学習支援の目的で会津地方の農林業理解のために紙芝居「お米の妖精ライサ 登場！」と、森林の大切さを訴える紙芝居「森の妖精フォーリー 登場！」を作成しましたが、その後は要請があり次第上演しています。

今年度は、先ず9月11日に喜多方市中央公民館の要請で、公民館で5月から12月に開催している「なんでもやってみ隊」(小学校1年生から3年生)及び「おもしろ小学校」(小学校4年生から6年生)の受講者を対象に、紙芝居の上演と健全な食生活のお話しを行いました。



1時間30分程度の内容ですが、子供たちからは「自然や農業の大切さがよく分かった」「好き嫌いをしないようにして、食べ残しもしないようにします。」といった感想も聞かれ、「会津には何枚くらいの田んぼがありますか?」「緑の少年団に参加していますが、緑の募金は一年間でどの位たまり

ますか？」といった質問も出されました。

それらの一つ一つに答える過程で、スタッフが勉強することも多く、我々の仕事をどのように県民の皆さんに理解していただくかといった方法を探る上で役立っています。

また、10月11日には会津若松市の大通り商店街の女性を中心に組織されている“アネッサクラブ”が中心となって行われた、まちおこしイベント「文明開化 はいからさんに逢えるまち」において“ストリート紙芝居”を上演しました。

この日は大通りから野口英世青春通りの約1kmを歩行者天国として各種イベントが繰り広げられ、特に別会場では新千円札の肖像に野口英世が登場することにちなんで新たに製作された「創作紙芝居 野口シカものがたり」や「会津の昔話し」を劇団員や会津民話会の語りべが上演するなど、紙芝居が随所で見られるイベント構成になっていました。

有機野菜を販売する露店の横で「寺子屋あいつ農林ものがたり～！始まり始まり！」などと始めると、道行く人々は足を止め、そのまま座って紙芝居に聞き入っていました。特に子供たちには紙芝居は新鮮だったようで、真剣な眼差しで見入っていました。



聞く人の反応を見ていると、「森林は“緑のダム”とも言われ、洪水を防ぐ役割がある。」「我が国の食糧自給率が実は40%程度に過ぎない。」という箇所が驚くようでした。特に食糧自給率の低さについては、隣で野菜を売っていた方も手を止めて聞かれていました。

会津農林事務所では、紙芝居スタッフを揃えていつでも要請に答えられるように体制を整えています。また、積極的にPRも行いさらに農林業理解を進めたいと考えています。

「食育 in ばんだい2004」が開催されました

去る9月14日に猪苗代町にあるホテル「ヴィライナワシロ」に於いて、会津地方の農業と食のあり方を考える民間団体「あぐり会津」、有限会社四季食産、社団法人全日本司厨士協会関東総合地方本部福島県本部が共催して「食育 in ばんだい2004」が開かれました。

「あぐり会津」のパートナーマネージャーである渡部満男氏は、常日頃から「農家が元気でないと流通の食品産業も消費者も育たない。」という強い意識をお持ちの流通業界の方で、川中である流通業界から川上である生産者と川下である消費者を一つにつないで同じ気持ちになって食育や地産地消を推進されている方です。



今回は「会津の漁業（川魚）はふるさとの食育の原点。川の源で育まれる命、この源がかもしたすものは子供達の命。」というコンセプトのもと、磐梯町にある有限会社四季食産の坂本養鱒場で飼育されている“チョウザメ”を取り扱いました。「うつくしま農林水産ファンクラブ」員でもあるヴィライナワシロ総料理長の山際博美氏によって、8品のフルコースディナーに調理されたチョウザメですが、もちろんそこに供された野菜などの食材は県内産を最大限に使用されたとのことでした。

出席者はこれら食材の生産者、流通業者、教育関係者、会津の文化＝地域の食という視点の活動を行うITベンチャー企業、司厨士協会の方々でした。

同じものを食しながら、それぞれの立場で日頃考えている食に対する熱い想いを語り合ううちに、普段は顔を見合うことも何らかの接点も全く無い方々が同じ気持ちで日々歩まれていることを確認し合えた夕べとなりました。

今回の催しの他にも年度内に第二弾の取り組みも計画されているとのことですので詳細が分かり次第お伝えします。

この情報は会津農林事務所のホームページでも御覧になれます。

(ホームページアドレス) <http://www.aff.pref.fukushima.jp/aizu/aizunourin.htm>